

# 家族バンザイ My Family

## 取材先の希望により非公開



**37** 回目の菊花展。JR東田子の浦駅で、菊花展が開かれています。開催期間は、今月十四日まで。一年間丹精込めて育てられた赤や白や黄色の菊が、駅のホームで咲き競っています。この菊花展は、こととして三十七回目。静岡国体のときに、皆に花を見てもらおうと始めたものが、それ以来、「ふるりの駅を花と緑で飾る会」の会員百人がずっと続けてきました。会長は、中柏原新田にお住まいの高木市郎さんです。「ことしは雨が多く日照時間が短い異常気象で、つぼみのつきが

ふるさとの駅を花と緑で飾りたい  
37回目を迎えた東田子の浦駅の菊花展

たかぎ いちろう  
高木市郎さん

(82歳)



二回も三回もあつたりして、会員の苦勞は大変なものでした。それでも、まあまあのできばえでひと安心です。駅のホームを飾るのは、菊の三本立ち・七本立ち・けんがいづくりの三百五十鉢。旅する人にも、車窓の憩いとして楽しんでほしいと思います。手紙をくださる人もあつて、「富士山と菊がきれいで心が洗われました」と書いてあるのを読むとうれしいです」。

元吉原地区は、菊づくり農家が現在四十軒ほど。ハウスや露地で栽培しています。

「菊づくりの一番のものは、土づくりです。赤玉土や腐葉土、砂などを混ぜますが、もう来年の土をつくる時期です。菊は、花の部分が顔、葉っぱが服、茎は足です。三本立ちの意味は、天・地・人をあらわします。菊をめぐるひとときは、何ともいえずいいものです。ことしも、大勢に見てほしいと思いますね」。